

平成30年度 第1回灘区地域包括支援センター運営協議会

議事録

- 1 開催日時：平成30年8月8日（水）13：30～15：00
 - 2 開催場所：灘区役所4階A会議室
 - 3 出席委員：10人（欠席委員2名）、傍聴人なし
 - 4 議題
 - （1）平成29年度あんしんすこやかセンターの運営状況について
 - ①各センター月別実績報告書
 - ②あんしんすこやかセンター連絡会等の実施状況
 - （2）平成30年度あんしんすこやかセンター事業計画書について
 - （3）介護予防ケアマネジメント対象者が要介護状態となった場合の取り扱いについて
—指定居宅介護支援事業所の選定における確認書の受理状況—
 - （4）神戸市での総合事業について
- 【以下、非公開】**
- （5）特定事業所へのサービス集中率について
 - （6）あんしんすこやかセンター自己評価について
 - ①自己評価作成の目的・内容等説明
 - ②各あんしんすこやかセンターの自己評価について
 - （7）地域包括ケア充実のための事業目標
5. 主な意見と事務局回答

議題（1）について

- （委員）：地域ケア会議の出務依頼の連絡が遅いため、調整ができず出席ができない。もう少し早く連絡をほしい。
- （委員）：開催間際になっての連絡が多い。地域ケア会議が始まった当初は早目の連絡だったが、最近は直近になっている。
- （事務局）：あんしんすこやかセンターから区に企画書を提出してから、正式な発送となる。なるべく早く、ご連絡ができるよう周知徹底していきたい。
- （委員）：篠原南地区で立ち上がった「りんりんカフェ」について、7月が第1回目で10名の参加だった。参加者が自発的に手品や詩吟をしていた。反省点として、もう少しじっくりと話をする時間を設けた方がよかった。2回目以降は、話を聞く時間を持ちたい。
- （事務局）：地域ケア会議から地域の課題が挙がり、誰でも集まれる場があれば、ということのできた事例。さらなる発展を期待したい。

議題（３）

- （委員）：要介護となった際、本人希望でえがおの窓口を決めるのが 7 割、一覧を見せて選んでもらうのが 3 割となっているが、全市的にはどうか。一覧を見ずに、本人希望で決める材料は何かと疑問に感じた。
- （事務局）：利用者アンケートを取っておらず、情報を収集していないため、理由はわからない。今後、あんしんすこやかセンターへ確認を行っていく。

議題（４）

- （委員）：フレイル健診について、神戸市から神戸市薬剤師会へ委託され、実施している。対象者は 65 歳で国保加入者と限定している。薬局内で行うもので、他の場所では不特定多数の人にはできない。
- （委員）：どこの薬局にでも、いつ行っても実施してもらえるのか？
- （委員）：忙しい薬局は予約をして行く方がよい。健診は 10 分程度で終わる。
- （委員）：健診を受けた後の流れは？
- （委員）：フレイル健診後、記録用紙が複写になっているため、データは持ち帰ることができる。健診後、記録用紙を集計するところへ送ると、後日、総合判定が自宅へ送られる。

議題（５）

- （委員）：センターと施設との連携は、入所・退所の際情報を伝え合っているのでは、連携は取れている。
- （委員）：センターが地区診断をし、活動の評価をするのは、なかなか大変。3 年で目標を達成するのも大変。
- （事務局）：データは、神戸市ホームページにアップされているデータから量的データを収集し、また地区を回って見聞きしたことをデータとする質的データと合わせて総合的に判断し地区診断をしている。本庁介護保険課が地区診断の研修をあんしんすこやかセンターに対し行っているのでは、研修内容を生かして分析を行っている。
- （委員）：この度の豪雨災害では、地域に要介護の方がどれくらいいるのかは把握していたのか。
- （事務局）：災害発生後、あんしんすこやかセンターが中心となり電話で安否確認をした。行政は要援護者リストを元に確認を行った。
- （委員）：大阪北部地震の際、デイサービスのエレベーターが止まっていて、デイへ行っても利用ができなかったと聞いた。災害があった時の情報共有が何かできればと感じた。
- （委員）：要介護の人を全数把握することは難しいだろう。住民票を移していない人もいるため、住民票が灘区以外の人にも住んでいる。子どもの近くの施設へ入所し、介護を受けているが、住民票は他都市に置いている人はいる。

(委 員) : 要援護者リストは半年ほどですぐに変わってしまう。入れ替わりが激しいと感じる。死亡した人が近所にいてもわからないことがある。

(事務局) : この度、要援護者リストに基づいて訪問すると、台帳と違う人が住んでいることがあった。実態を把握して、修正していきたいと思う。

(事務局) : 災害時に対応できるために、平時から地域の関係者との繋がり・見守り体制を築いていくことが大切と思う。

(事務局) あんしんすこやかセンターと地域団体との連携はできていると感じるが、実際の印象はどうか。

(委 員) : 3 カ月に 1 度、小地域支え合い連絡会を開催している。何かあった時に頼りになる関係づくりができている。個人情報の問題があり、どこまで共有していくか、線引きが難しい時もある。